

新たな府民意見について(主なご意見)

資料 4

総件数 3942件(平成23年3月14日～10月27日分)
 前回以降の件数 2742件(平成23年9月23日～10月27日分)
 メール、ホームページ問い合わせシステム : 331件
 電話 : 395件
 FAX : 14件
 郵送 : 5件
 来庁 : 23件
 署名 : 1974件

※ 太字は前回以降の新しいご意見

◆反対意見: 2736件	(件)
災害廃棄物の汚染について	76
<ul style="list-style-type: none"> α線、β線、γ線のすべてについて検査できるのか 計測不能な危険物質ががれきに付着している可能性がある 放射性物質は消えてなくなる 福島第一原発はまだ収束していないため状況が変わる可能性がある 	
受入、復興支援について	90
<ul style="list-style-type: none"> 関西の周辺府県を含め、受入反対を表明した都道府県もある 受け入れると周辺府県にも影響を与える いっどこで地震が発生するかわからないため受入をするのは不安 被災地周辺で処理施設が新たに建設されており、大規模な処理が始まる 	
処理処分について	86
<ul style="list-style-type: none"> セシウムは高温で気化するため除去できずに外気に出てしまう、既存の処理施設の性能が不十分である 放射能はたとえ少量でも焼却すると10倍に濃縮し、それが何万トンにもなると問題である 基準を超えたがれきと数値が低いがれきを混ぜレベルを下げるという方法は濃度は低くなるが放射線量の総量は変化しない 現地で測定して選別するといってもそれがきちんとなされているか分からない、完全に選別するのは不可能 	
検討会議、処理指針について	104
<ul style="list-style-type: none"> 受入前提というのをやめてほしい ホームページ以外にも周知の方法を検討すべき(広報誌、マスコミ、市町村への文書通知、説明会等) 検討会議で傍聴者が発言・質問できる時間を設けてほしい 国の基準に基づいてしか判断できないのであれば、信頼できる基準値を作ることは出来ない ICRPの考え方は古く、最大900倍の過小評価をしているとの発言があるため、参考にしないでほしい (震災前の基準、クリアランスレベル、ECRRのモデル、チェルノブイリ事故で周辺各国が設けた基準等を参考にしてほしい) 委員の発言が少なく国の資料をなぞっているだけ、各委員が資料を持ち寄る等して活発に議論すべき 内部被ばくは外部被ばくよりも危険なため、すべての線量源を足し合わせて考えてほしい 医師(人体への影響)、土壌や海洋の研究者(環境影響)、住民代表、法務の専門家等あらゆる方面から意見をもらうべき パブリックコメントや府民投票をしてほしい 	
国の基準について	49
<ul style="list-style-type: none"> 国の基準にはセシウム以外の放射性物質は考慮されていない、検出不能な放射性物質の危険性を考慮していない 諸外国の基準と比較して高すぎる 	
健康被害について	121
<ul style="list-style-type: none"> 子どもへの影響が心配 処理施設や運搬ルートの周辺の住民の健康被害が心配である 晩発性障害(がん、白血病等)が心配である 放射線障害はがんだけでなく様々である(免疫低下による感染症、皮膚病、呼吸器の疾患、中枢神経への影響) 食物連鎖によって生物濃縮されていく 長寿命の放射性物質は体内に蓄積して内部被ばくを引き起こすおそれがある 東北・関東ではすでに健康被害が出ている 	
放射性物質、放射性物質に汚染された廃棄物の安全性について	61
<ul style="list-style-type: none"> 被災地で除染できていない 測定ができないと安全性が確保できない(第2回の検討会議「ストロンチウムの測定は大量になると困難」との発言を受けて) 全核種が分からないと危険性の予測は出来ない、セシウムの量だけで安全と考えてはならない 濃度は低くても大量に焼却すると膨大な放射線量になる 汚染は均一でないため測定しても真値がわからない 焼却・埋立に関する長期間の実験・実証データがない 	
住居・食物について	66
<ul style="list-style-type: none"> 土壌や海洋が汚染されれば安全な土地も食物も供給できなくなる 関西の食物を選んで買っているのに、汚染が広がればできなくなる 関西に避難してきたのに、また違う場所に避難しなければならなくなる 大阪府も風評被害に遭う 	
責任について	22
<ul style="list-style-type: none"> 補償体制を整えてほしい(人体、土地、農水産物等) 検査体制を整えてほしい(各家にガイガーカウンターを配布する、毎月こどもの健康診断を行う、周辺土壌の検査、食品の検査等) 	
その他	19
<ul style="list-style-type: none"> 経済・産業・外交に影響を与える 目に見えないものを一般市民の生活圏内に持ってこられると避けることは出来ない 被災地の方々でも汚染のあるがれきは広めてほしくないと言っている(岩手県民の方からも受入をやめてほしいとの意見あり) 	

◆賛成意見: 6件(条件付きの意見も含む)

主な内容
<ul style="list-style-type: none"> すべてが汚染廃棄物だと決めつけるのはおかしい 補償体制が整えられるのであれば受け入れてもよい 実験して安全性が確認できれば受け入れてもよい、安全に処理できたという前例があれば受け入れてもよい 震災前の基準である100Bq/kgのものであれば受け入れてもよい